

鯖江市総合戦略推進会議【要旨】

日時 令和2年2月4日（火）

午後1時30分から

場所 市役所 4階 全員協議会室

【欠席】4委員（21委員出席）

1 開 会

2 議 事

(1) 第2期鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

(2) その他

3 閉 会

【配付資料】

資料No.1 前回の会議での意見と検討状況

資料No.2 パブリックコメントにおける市民意見一覧

資料No.3 第2期鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

【議事要旨】

▼会長あいさつ

それでは、ただ今から、第3回鯖江市総合戦略推進会議を開会します。委員の皆様には、ご多用のところご出席をいただきありがとうございます。本日の会議の所要時間は、1時間程度を予定いたしていますので、委員の皆様には進行にご協力いただきますよう、よろしくお願いします。それでは、会議次第に従いまして、順次、進めてまいりたいと存じます。まず、会議次第議事「第2期鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について」の審議を行います。事務局から説明をお願いします。

▼「第2期鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について」

○資料No. 1～3について政策経営部長から説明。

○質疑・意見

委員：

「世界のめがねの聖地SABAE」というフレーズは確定したコンセプトか。

政策経営部長：

このコンセプトでいきたいと考えている。

委員：

市長のブログにも上がっており目指していくことは分かるが、言い切ってしまうのはどうなのかなと感じている。めがねの聖地と謳うのであれば、世界という言葉はいらないと思う。仮に世界という言葉を入れるのであれば、日本語のみで作成していることも疑問を感じるし、逆に信頼を失いかねないと思う。また、本戦略の表紙について、もっと「世界のめがねの聖地SABAE」らしい魅力あ

るもの、デザイン性のあるものにすべき。今、提示されている表紙は、いかにも手作り感が強く魅力に欠ける。この表紙を魅力あるデザイン性の高いものにし、中身も読んでもらえるよう工夫することが大事だと思う。

政策経営部長：

委員ご指摘のとおりで、表紙については事務局においても協議を重ねてきており、ぜひ参考にさせていただきたい。また何か良い案があったら教えていただきたい。

委員：

デザインを公募したらいいのでは。

政策経営部長：

考えさせていただく。

委員：

あと、基本目標が4つ記載されているが、外からの視点で見ると、鯖江市はこの4つができていないと受け取られてしまう。鯖江市として、今ある魅力について、より高みを目指していくという発信であるならば、現況既にこれだけの魅力ある雇用がありますといったデータ等をきちんと提示して、さらに高みを目指していくんだとした方がより魅力が伝わると思う。今の載せ方では、魅力ある雇用がなく、若者が住みたくない元気がない、そして安心して快適に暮らせないまちが現状で、それらを打開していこうとしている途上のまちだと見えてしまうと思う。国内外のデータと比較して鯖江市は現状どの位置にあるかを提示し、どのような具体的な施策をもって、さらなる高みを目指していくのかをトップページで分かるようになっていけると良いと思う。

政策経営部長：

昨年7月に市民アンケートを実施し、現状どこに満足し、またどこに不満を抱えているかを分析し市ホームページにも公表しており、現状に関するデータを提示することは可能かと思う。また外からも相対的に見て鯖江市は非常に頑張っている地域だと言われ、そういった外から見て、また市民の声を含めて、今回の総合戦略のどこになるかは分からないが、具体的に満足されていることについて書き込み紹介できたらと思う。

委員：

パブリックコメントについて、今回は4名の方から9件の意見となっているが、前回と比べると増えているのか、それとも減っているのか、また、どのような周知を行ったのか伺いたい。

政策経営部長：

パブリックコメントについては、第1期の際には9名の方から20件弱の意見があったと記憶している。周知については、市ホームページ、市役所の総合案内窓口、各地区公民館、そしてめがねのまちさばえ戦略課に素案を出し3週間に

渡り意見を募集した。新聞など報道機関にも市民アンケートの詳細分析結果と合わせて報道をお願いしたが、なかなか周知が行き届かず終わってしまった面もあり、残念ながら前回より少ない意見となった。

委員：

広報さばえには掲載しなかったのか。

政策経営部長：

行っていない。

委員：

私自身も委員という立場の中で、パブリックコメントの実施については気づくのには時間を要した。それくらい周知については難しいことと重々承知しているが、だからこそ非常に大事なことであり、次に改訂する際のパブリックコメントの募集においては、行政職員の発想だけで行うのではなく、この推進会議の場でどのような周知の仕方が最適か一緒に考えていければいいのではないかなと思う。次に総合戦略の中身についてだが、49ページのKPIの「女性就業率」と「共働き世帯率」については、私自身も参加していた当会議の分科会において、目標にそぐわないといった意見が出され、一度削除されたが、最終案で復活された経緯を改めて伺いたい。

政策経営部長：

委員ご指摘のとおり分科会において、女性の、そして男性も含めて多様性のある地域性を目指すべきとの意見をいただき、削除するとの回答をさせてもらったが、その後の庁内の幹部で構成する会議において、やはり本市の強み、あるいは特徴的な部分として女性が頑張っているといったところについて、先ほど委員からも本市の強みの部分を載せるべきではないかと述べられていたが、そういった強みを伸ばしていくことも必要であるとの意見があり、改めて目標として掲げさせてもらった。

委員：

繰り返しになるが、この目標値に違和感を覚えるのは、子育てや家事を頑張りたいと思っている女性も多くいる中、そのような方々は減らしていきましようという目標になってしまっている。あくまでも就業率55.1%は結果であって、それが40%になるのか、60%になるのかは結果論に過ぎないと思っている。女性の多様な、幸せな働き方、生き方となった場合に、何十パーセントの方は働いてくださいと決めるのは、やはり違うのではないかと今も強く感じていることなので、改めて意見を述べさせてもらった。

委員：

総合戦略65ページのKPI「待機児童数」について、現状値、目標値ともに0人となっているが、待機児童数の定義をきちんと明記すべきではないか。実態として待機児童に対して不満を感じている方の声も聞いたりしているので、きち

んと記載しておくべきだと思う。

政策経営部長：

待機児童数の定義について、用語解説欄に記載させていただく。

委員：

非常に幅広く、積極的な目標設定となっており、素晴らしい戦略だと感じているが、L G B T Qについて、先ほど91ページを提示し職員研修参加者の目標設定を説明されたが、そういった研修ももちろん大事だが、例えば、市役所の申請書類等の性別欄を削除する、あるいは男性、女性以外の項目を追加するなどの実効性のある行動に移していく目標についても明記すべきだと思う。そうすることで、より早く浸透していくと思う。それともう一点、この会議の後、市長へ答申して一区切りとなると思うが、策定された後、いかにして市民に浸透させ広報していくかが非常に大事になってくる。総合戦略の内容を見ると、行政のみではなく、市民が主役となって取り組んでいかなければ実現しないことも多く掲げられている。そういった中で、今後どのように広報、周知していくのか、今の考えを伺いたい。

政策経営部長：

最初にL G B T Qについて、今現在、本市の全ての申請書類関係の性別記載についての洗い出しをしており、不要なものについては性別記載欄の削除を行っていく予定でいる。その作業を受けて、総合戦略にどのような形で反映させるかについては検討させていただきたい。また総合戦略をいかに市民や産業界等と共有できるかについては、市ホームページや広報さばえへの掲載はもちろんのこと、必要に応じて出前講座や各種会合等の場において、説明にさせていただき啓発を図っていきたいと考えている。

委員：

先ほど、女性就業率や共働き世帯率について意見があったが、例えば、国においては合計特殊出生率を希望出生率と呼んでいる。産みたいと思っている女性の希望を叶えるという意味合いで、そういう呼び方をしているが、それと同様で、女性就業率等についても、働きたくても働けない人たちの希望をどうやって叶えていくかということを考えて、それを応援する鯖江市といった観点で、目標に設定すること自体否定はしないが、その辺りのニュアンスも込めて記載すると良いのではないかな。人権という言葉もあるので、人の意思を尊重していくといったニュアンスを入れることは大事なことだと思う。それともう一点、関係人口に関して、国においても第2期総合戦略に、東京一極集中の是正に向けて、ある意味苦し紛れな所も否めないが関係人口を追加した。その国の戦略を受けて鯖江市においても関係人口について記載を追加したと思うが、鯖江市は現状人口が増えており、地方創生の中においても優秀な、モデルになるような地域である。その鯖江市の総合戦略において、関係人口をどう取り扱っているかということは、かなり

注目の的になると思う。そういう面から改めて本戦略を見ると、実際、定住人口につながっていることもあり、さほど関係人口について記載がされていない。一方、53、54ページに記載されている事業を見ると、鯖江市を象徴する事業が多数掲載されている。つまり、国が関係人口と謳う随分前から、鯖江市では関係人口獲得に向けた施策に取り組んでおり、その結果として定住人口の増加に繋がっているのではないかと。そういう意味でも、第1期の総括・検証の部分で、これまで関係人口獲得に向けて様々な施策に取り組み成果を上げてきたことについてきちんと提示し、国や他自治体に向けて、関係人口の創出は地方創生にとって有効な手段となることを鯖江市から投げかけていただきたい。

政策経営部長：

女性就業率、共働き世帯率の目標値について、以前、新聞紙上において、働きに行っていない女性が町内など地域で後ろ指を指され、福井県は非常に住みにくい地域性だと指摘をされていた記事もあったが、そうではなく、自分が働きたいと思えば働ける地域性、あるいは家の中での色々な役割を担いながら生活していくことを選択できる地域性、それが鯖江市のあるべき姿であるというような表現で記載できないか検討させていただきたい。また、関係人口についても、委員ご指摘のとおり、その言葉を理解する前から、鯖江市においては、様々な施策に取り組んできた。「ゆるい移住」や「鯖江市地域活性化プランコンテスト」、「河和田アートキャンプ」など今日出席の委員の皆様との関係も深い事業が多数あり、その取り組みの結果が、今の「世界のめがねの聖地」として注目されるまでに至ったと思っており、ご指摘の総括の部分において、その辺りを記載できたらと思う。

委員：

農業面からの意見を述べさせてもらおうと、スマート農業の導入や栽培技術の向上、農業経営の効率化など謳われているが、農業というのは基本的には土地、農地がしっかりしていなければ成り立たない。土地改良の状況も変わってきているし、農業機械の大型化も進んでいる。その認識がないと農業は廃れていくと思う。私事になるが、今現在スマート農業の実証事業を行っているが、農業機械の大型化により農道、道路の狭小に苦慮している。私の地元では農業用排水路の暗渠整備を開始しており、道路幅も広げてはいるが、農業の効率化を考えた場合、今後はこのような圃場整備が大事になってくると思うので、その辺りについての記載をお願いしたい。

政策経営部長：

本戦略においても51、52ページにおいて、農業に関して記載している中、例えば、52ページの実施施策④「農業基盤の整備促進」の部分で暗渠整備や農地の集積、集約の加速化を記載しているが、今のご指摘を受けて、所管課と協議し表現について検討させていただきたい。

委員：

49ページのKPI指標「市役所男性職員の育児休業取得率」について、目標値が20%となっているが、目標値が低すぎではないか。言い方は乱暴かもしれないが、強制的に取得させれば100%にもなるわけで、もちろん強制的に取らせるものではないし、取らないことを選択する人がいたと仮定しても、20%が適切な数値かどうか疑問を感じる。

政策経営部長：

制度上、育児休暇を取得したいと申し出た職員に対して取ってはいけないとは言えないようになっているので、取得希望者には100%取得できる環境にある。委員ご指摘のとおり、事務局内でも20%という数値については議論していたところでもあるので、総務当局とも協議し検討させていただきたい。

会長：

他にありませんか。それでは、予定の時間も過ぎましたので、ここで議事については終了させていただきます。本日出た意見を受けての加筆修正等については、改めて会議を開いて報告説明となると委員の皆様にもご足労をお掛けすることにもなるので、できましたら会長の一任により事務局と協議させていただき市長への答申としたいと思いますが、いかかでしょうか。

委員：

オンラインを使った意見交換の場を設けていただけないか。

政策経営部長：

テレビ会議のようなものを想定しているのか。

委員：

そういうものではなく、フェイスブックなどのグループラインのようなものでお願いしたい。1時間という限られた時間の中で、これだけの人数の皆さんが意見を述べるというのは非常に難しい。委員の任意による参加で良いと思うのでお願いしたい。

政策経営部長：

検討させていただく。

会長：

それでは、本日の議事については、これで終了とします。今後の日程等について、事務局より説明願います。

事務局：

今ほど、会長がおっしゃられたとおり、本日の意見を踏まえて修正し、また、オンラインによる意見交換との提案もありましたが、答申の関係上、期限等決めさせていただき、本日ご発言のなかった委員からの意見も吸い上げた上で策定していきたいと思います。その答申についてであります、会長、副会長の都合も踏まえまして、できましたら2月中にさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

会長：

それでは、第3回の鯖江市総合戦略推進会議は、これを持ちまして閉会とさせていただきます。今回が策定に向けては最後の会議となりましたので、これまでのお礼を含めて、一言ご挨拶をさせていただきます。去る8月19日に牧野市長から諮問を受けました第2期鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について、これまで本日含めまして3回の推進会議と4つの分科会を開催させていただきました。委員の皆様には、大変ご多用の中ご出席をいただき、慎重かつ熱心な審議を賜りまして、誠にありがとうございます。一部修正等ございますが本日こうして、案をまとめることができましたことは、川島副会長および竹部副会長をはじめとする各委員の皆様方のご尽力の賜物と心からお礼を申し上げる次第であります。答申につきましては、先ほど事務局から説明がございましたように、2月中に牧野市長にお渡ししたいと思いますが、本推進会議の答申の趣旨を最大限に尊重して実行いただきますよう、お伝えする所存でございます。最後になりましたが、各委員の皆様には、今後とも、それぞれのお立場でご活躍されますことを心からご祈念申し上げますとともに、今後は、総合戦略の進行管理のため再びお集まりいただくこととなりますので、深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、推進会議を終了するにあたりましてのご挨拶とさせていただきます。皆様どうもありがとうございました。

政策経営部長：

それでは、推進会議の終了にあたりまして、事務局を代表し、お礼のご挨拶を申し上げます。8月19日から本日までの約半年にわたり、第2期総合戦略の策定に対し、慎重なご審議を賜り、誠にありがとうございます。野村会長をはじめ、委員の皆様には、たくさんのご意見、ご指摘を賜り、事務局としましても大変勉強させていただくことができました。この場をお借りしまして重ねて厚くお礼申し上げます。先ほど、説明しましたように、2月中に答申をいただきました総合戦略案は今年度内に市のホームページに公表させていただきます。また、広報にも概要を掲載したいと思っております。さらに、年度内に製本し、関係者および委員の皆様にも送付させていただきます。また、この総合戦略につきましては、この推進会議で、K P Iの達成状況など進捗管理を行い、必要に応じて見直しを行うこととなります。その際には、再びお集まりいただくこととなりますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。最後に、委員の皆様におかれましては、今後とも、鯖江市政に対します格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。お礼のご挨拶とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。